

独立行政法人労働者健康安全機構
秋田労災病院
公的医療機関等 2025 プラン

平成30年 3月 策定

【秋田労災病院の基本情報】

病院の概況

1. 開 設 昭和29年1月 東北労災病院秋田分院
 昭和31年7月 秋田労災病院
2. 診療科目
 - ・ 承認標榜 内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科
 耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科
 - ・ 院内標榜 血液・腎・膠原病科、糖尿病・代謝内科、消化器科、健康診断部、産業保健科
3. 病 床 数 許可病床 一般250床
4. 病床種別 急性期病床 150床（10：1入院基本料、急性期看護補助体制加算50：1、DPC報告）
 回復期リハ病床 46床（回復期リハ病棟入院料2）
 障害者病棟 54床（障害者施設入院料）
5. 職員数 医 師 12名
 歯科医師 2名
 看 護 師 142名
 医 療 職 45名
 事 務 職 21名
 計 222名

【１．現状と課題】

① 構想区域の現状

【大館・鹿角地域医療構想区域（構想区域）の現状】

はじめに、構想区域の人口減少の現状を把握する。秋田県地域医療構想（平成28年10月28日策定）では、国立社会保障・人口問題研究所の2013年から将来への推計値を示し、構想区域においては、65歳以上と75歳以上の人口のピークは、それぞれ2020年と2025年であるとしている。一方、平成29（2017）年の秋田県人口動態調査の資料では、構想区域の2017年の65歳以上人口は41,115人、一年間の増加は198人（0.45％）、2016年では40,917人、一年間の増加は404人（0.99％）であった。このように高齢者数増加は予測より早く進んでいるようである。

尚、秋田県全体の人口と人口動態調査では、2017年の65歳以上の人口は351,076人、一年間で3,538人（1.0％）増加している。この増加人数と率の経年推移は、2016年が4,237人（1.2％）、2015年が6,681人（2.0％）、2014年が7,288人（2.2％）で、年々減少している。

次に医療供給体制の現状について述べる。秋田県の地域医療構想において構想区域の医療供給体制（医療施設）の現状と課題の項において、現状として以下の5項目が示されている。（秋田県地域医療構想から引用）

- 平成28年4月1日現在、大館・鹿角地域内の病院数は10 施設あり、病床数は1,815床となっています。
- 病院の種別では、一般病院が8施設、精神科病院が2施設あります。
病床の種別では、一般病床が967床、療養病床が511床、精神病床が327床、感染症病床が4床、結核病床が6床です。
- 平成26年の病床利用率は一般病床が64.1％（県平均75.1％）、療養病床が97.4％（県平均93.4％）となっており、一般病床は県平均を下回っているが、療養病床は県平均を超えています。
- 大館・鹿角地域における病院の機能については表1 のとおりです。

表１：構想区域の病院機能（秋田県地域医療構想から引用）

	救急告示	災害拠点	臨床研修指定	エイズ治療	地域がん	地域周産母子	へき地医療
秋田労災	○						
大館市立総合	○	○	○	○	○	○	○
かつの厚生	○	○					○

構想区域における平成 27（2015）年度の病床機能報告の病床数（表 2）と平成 37（2025）年医療機能別必要推計病床数（表 3）を示す。

表 2 平成 27（2015）年病床機能報告（秋田県地域医療構想から引用）。

病院名*	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	無回答	計
大館市立総合病院	0	375**	0	0	0	
秋田労災病院	0	150	46	54	0	
大館市立扇田病院	0	62	0	42	0	
医療法人健永会 明日実病院	0	20	0	78	0	
医療法人 光智会 西大館病院	0	0	0	144	0	
かつの厚生病院	0	152	55	0	55***	
医療法人楽山会 大湯リハビリ温泉病院	0	0	45	106	0	
有床診療所	0	2	18	38	0	
計	0	761	164	462	55	1442

* 鹿角中央病院（療養病床 96 床）が報告していない。** 地域包括ケア病床 59 床が含まれている。*** 休床中。

表 3 平成 37（2025）年に必要と推計される病床数（秋田県地域医療構想から引用）。

医療機能	平成 37（2025）年医療需要（人/年）	必要病床数（床）
高度急性期	50	67
急性期	234	300
回復期	266	296
慢性期	257	279
計	807	942

病床機能別病床過不足は、過剰が急性期 461 床と慢性期 183 床過剰、不足が高度急性期 67 床と回復期 132 床と推計されている。

現状について補足する。構想区域の一般病院で一般病床 100 床以上を有する病院は秋田労災病院、大館市立総合病院とかつ厚生病院の 3 病院である。地域医療構想策定の過程で 3 病院の病院長の話し合いにより、各病院における 2016（平成 28）年（地域医療構想に使われた 2013 年から 3 年後）の表 2 に示した急性期病床における、医療資源投入量から算出される病床機能分類に従った入院患者の現状を相互に確認した。

それによると、高度急性期の一日当たりの患者数は、大館市立総合病院で 25 人、かつ厚生病院 9 人、秋田労災病院 9 人で、構想区域として 43 人（床）、急性期はそれぞれ 89 人、27 人、34 人で構想区域として 150 人（床） あった。また、現在、急性期病床に入院している患者において、回復期患者とみなされる患者数は 145 人（床）、慢性期は 197 人（床） であった。これらの人数を地域医療構想策定と同じ病床稼働率（高度急性期 75%、急性期 78%、回復期 90%、慢性期 92%）で補正すると、構想区域（3 病院）での必要病床数推計値は高度急性期 57 床、急性期 192 床で、地域医療構想に示された必要病床数より少ない。将来推計人口で補正すると将来必要病床数はさらに少なくなる。

一方、構想区域の回復期と慢性期の必要病床数は、現在 3 病院の急性期病床に入院している上記の 145 人と 197 人が、既存の回復期病床数と慢性期病床数に加えられることになるが、表 3 に示した地域医療構想における平成 37（2025）年必要病床数推計の回復期病床 296 床と

慢性期病床 279 床に含まれているか再確認が必要かもしれない。

② 構想区域の課題

秋田県地域医療構想において大館鹿角構想区域の医療施設等の課題として以下の四項目が示された（秋田県地域医療構想から引用）。

- 三次救急機能が不足しており、より高度な医療が必要な患者が他県に流出している状況です。
- 病院の機能分化・連携を推進していくためには、経営主体の枠組を超えた調整が必要になります。
- 開業医の高齢化や後継者不足により、今後、診療所数が減少することが予想されます。
- 人口減少が公共交通機関に大きく影響を与え、通院が困難になることが懸念されます。

課題に対する補足。

一つ目の課題は、構想区域（二次医療圏）に三次救急施設がないということであって、そのことから当二次医療圏に三次救急施設を持つべきであるとの議論にはならない。また、将来必要病床数推計（地域医療構想）における高度急性期病床67床不足は、現状で他県に流出している患者群は含まれていない。本課題の解決は、三次救急施設を有する他の二次医療圏との連携等で、当構想区域が三次救急機能を持つ必要はない。つまり現在実施されている転院搬送あるいは救急現場から直接搬送されている三次救急施設とのさらなる強化された連携体制の構築であろう。

救急搬送の現状について、構想区域の2消防本部の活動記録から隣接する他県への救急転院搬送（上り搬送）との件数を表4に示す。

表 4 大館市消防本部と鹿角市消防本部の活動 病院から管轄外への搬送

	岩手医科大学	岩手県大学以外	秋田大学	秋田県大学以外	弘前大学	青森県大学以外	計
かずの厚生病院	73	3	1	6	4	5	92
秋田労災病院	0	0	1	1	3	0	5
大館市立総合病院	0	1	6	8	50	9	74
大館市立扇田病院	0	0	0	1	2	0	3
計	73	4	8	16	59	14	174

二つ目の課題に挙げられた「経営主体の枠組を超えた調整」の意味が不明瞭である。三番目の課題として挙げられた、開業医数の減少は深刻な問題である。このことから構想区域内のそれぞれの病院において、一次医療の実施が必要となるとの非公式な議論もある。しかし、国策として進められている地域包括ケアシステムの構築における病院の役割とに齟齬が生じる可能性も出てくる。最後の課題も深刻な問題ではあるが、このことから立地の変更が望ましい医療機関が出てきたとしても、それを地域医療構想調整会議で議論できるかは疑問である。

③ 秋田労災病院の現状

【病院の理念】

当院は、勤労者や地域の人々の健康増進と疾病の予防、治療に取組み、患者様の人権を尊重し、あたたかく、思いやりのある安全な医療を提供します。

【病院の使命】

当院の社会的使命は、「地域住民に良質な医療を提供する。また、臨床研究では治療と予防の質の改善に寄与する学術的成果を得る。」使命を達成するために、「〇地域医療を基盤とした勤労者医療〇勤労者の疾病予防や治療に関する臨床研究〇職場復帰を目指す治療就労両立支援〇地域包括ケアにおける健康増進事業」に取り組む。

【病床】

(1) 許可病床数 250床

急性期病棟(2階西、3階西、3階東) 150床 (10対1入院基本料 DPC報告)
回復期リハビリテーション病棟(4階東) 46床
障害者施設等入院基本料病棟(4階西) 54床

(2) 稼働病床数 200床 (平成30年2月1日から)

急性期病棟(2階西、3階西) 100床 (10対1入院基本料 DPC報告)
回復期リハビリテーション病棟(4階東) 46床
障害者施設等入院基本料病棟(4階西) 54床

【診療実績】

(1) 全体

項	目	平成28年度実績
1日平均入院患者数	(人)	177
病床利用率	(%)	71
平均在院日数	(日)	32
1日平均外来患者数	(人)	342
救急搬送件数	(件)	381
手術件数	(件)	1,181
紹介率	(%)	26
逆紹介率	(%)	16

(2) 病棟別稼働状況等

① DPC報告一般病床 (2西3東西病棟 150床)

平成28年4月から12月の稼働率は70%

② 回復期病棟 (4東病棟 46床)

平成28年4月から12月の稼働率は67%

③ 障害者病棟 (4西病棟 54床)

平成28年4月から12月の稼働率は71%

秋田労災病院 (再掲)

秋田労災病院 2西3東西病棟 150床 (平成28年4月から12月)

医療資源投入量による区分	患者数	延べ患者・日	人数/日	配分 (%)
高度急性期	1,281	2,413	9	8.4
急性期	1,289	9,259	34	32.2
回復期	1,189	9,715	35	33.8
慢性期	1,136	7,380	27	25.6
小計	4,895	28,767	105	100

病床機能別病床利用率 (平成30年2月1日から稼働病床200床)

一般病棟の内訳	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年2月	平成30年3月
急性期 150 床 平成30年2月1日から100床	69.6	70.1	63.5	86.7	
回復期リハ 46 床	60.1	69.6	70.6	82.1	
障害者(慢性期)54 床	75.1	73.3	64.4	73.8	
計 250 床 平成30年2月1日から200床	69.1	70.7	65.0	82.1	

平成30年4月1日より許可病床194床へ削減（一般病床100床、回復期リハ病棟46床、障害者病棟46床）、障害者病棟を46床に削減すると病棟利用率は83.0%、病床全体の利用率は84.7%

【医師数（人）の推移】

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
内科	3	3	3	3	3	1
消化器科	0	0	0	0	0	0
外科	2	2	2	2	2	2
整形外科	5	5	5	5	4	4
脳神経外科	2	2	2	2	2	1
皮膚科	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	0	0	0	0	0	0
眼科	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	2	2	2	2	3	3
歯科口腔外科	1	1	1	1	1	2
麻酔科	0	0	0	0	0	0
計（病院長含）	15	15	16	16	16	14

※平成30年度は2月末時点

【立地地区】

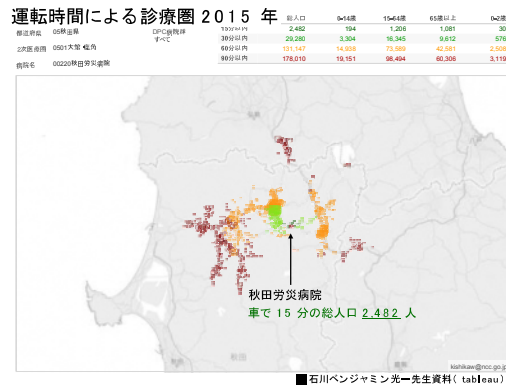
構想区域内で秋田労災病院の立地地区は大館市中心市街地（大館市立総合病院の立地地区）と鹿角市中心市街地（かつての厚生病院の立地地区）のほぼ中間点での山間部である。（図 1）

運転時間による診療圏のデータベース（2015 年）では、秋田労災病院まで車で 15 分の診療圏の人口は 2,482 人である。（図 2）

(図1)



(図2)



地域包括ケアシステムにおける病院の役割は診療所との連携の上に成り立つが、秋田労災病院の立地地区には診療所がなく、地域包括ケアシステムそのものが構築できない可能性がある。(図3)

(図3)



【秋田労災病院の特徴】

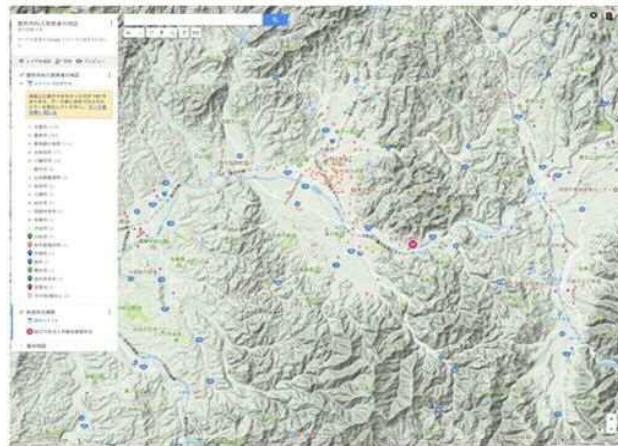
- ・整形外科の機能
- 1. 大館鹿角二次医療圏の60%以上を占めている。
- 2. DPC-MDC分類07-筋骨格系疾患では救急車受け入れ総数が秋田県で第3位である。(図4)
- 3. 入院患者の居住地域は二次医療圏を超えて、広い地域に分散している。(図5)
- 4. 秋田県せき損センター（仮称）の設置
 - ・秋田県内の秋田大学整形外科関連病院（30病院）から、秋田県内の脊髄損傷患者のリハビリテーション治療を当院に集約する。
 - ・脊髄損傷と脳梗塞の後遺症の軽減を目的として、札幌医科大学とニプロファーマー（大館市）が開発した骨髄間葉系幹細胞静脈内投与による再生医療。
 - ・ロボット型運動機能装置（ReoGo-J）の導入。
 - ・リハビリテーション科専門医外来の設置。

(図4)

救急車搬送入院数(MDC別) / 厚労省DPC調査-2015(H27)年度 (症例数は1月あたり)

病院名	総数	救急車	割合
30130秋田厚生医療センター	57.0	2.7	4.7%
30128明和会中通総合病院	56.7	2.6	4.6%
00220秋田労災病院	46.0	0.8	1.8%
10007秋田大学医学部附属病...	45.3	0.8	1.8%
30132JCHO秋田病院	38.3	1.1	2.8%
30129秋田赤十字病院	37.4	3.0	8.0%
30138大曲厚生医療センター	32.0	1.3	3.9%
30127市立秋田総合病院	24.2	1.6	6.6%
30137由利総合総合病院	23.8	1.3	5.2%
30135大館市立総合病院	18.7	2.8	14.7%
30140藤原記念病院	16.3	0.0	0.0%
30133市立横手病院	14.3	0.0	0.0%
00053市立角館総合病院	13.5	0.0	0.0%
00028秋田県立脳血管研究...	13.0	0.0	0.0%
30131能代厚生医療センター	10.4	1.8	17.6%
30134平鹿総合病院	8.8	0.0	0.0%
00054羽後町立羽後病院	7.2	0.0	0.0%
30141北秋田市民病院	6.5	1.0	15.4%
00219市立大森病院	6.3	0.0	0.0%
90158かづの厚生病院	6.1	0.0	0.0%
30138雄勝中央病院	4.9	0.0	0.0%
01170男鹿みなと市民病院	4.9	0.0	0.0%
30136本荘第一病院	4.3	0.8	19.2%
01284能代山本医師会病院	4.0	0.0	0.0%
01223小泉病院	1.8	0.0	0.0%
00221JA秋田雄勝東厚生病院	1.2	0.0	0.0%
00694運忠会土崎病院	0.0	0.0	0.0%

(図5)



・ 地域医療に於ける貢献

i 救急医療

構想区域全域から救急搬送患者の受入。(図6)

大館市立総合病院からの要請を受け、平成30年3月1日より整形外科領域における大館市、鹿角市管内からの救急搬送輪番制を開始。

ii 急性期医療

整形外科領域における急性期疾患から慢性疾患までの高度医療（手術）を実施。整形外科年間手術件数は1,132件（28年度実績）。脊椎固定術（前方椎体間固定・後方椎体間固定）、椎間板摘出術（後方摘出・側方摘出）、人工股・膝関節置換術等の高度な手術を実施。

iii 回復期リハビリテーション医療

回復期リハ病棟の活用により、整形外科領域における手術後早期からの運動器リハビリを実施。脳卒中患者等の積極的な受入を行い、集中的な脳血管疾患リハから廃用症候群リハまでと幅広くリハビリテーションを実施。大館市立総合病院との連携バスの運用。

iv 透析医療

透析施設が不足し広い地域から来院している。(図7) 患者数が増加している。(表5)

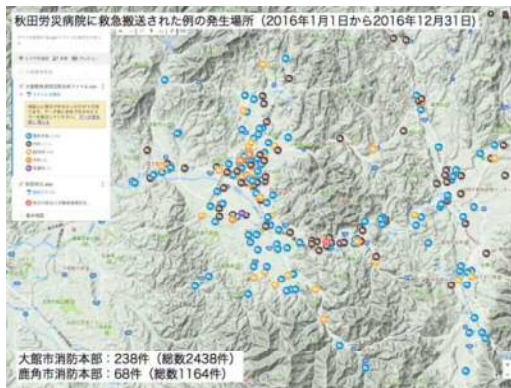
v スポーツ傷害の治療と予防

スポーツ外来を開設し中高校生を中心にスポーツに特化した専門的な治療やリハビリテーションを実施。

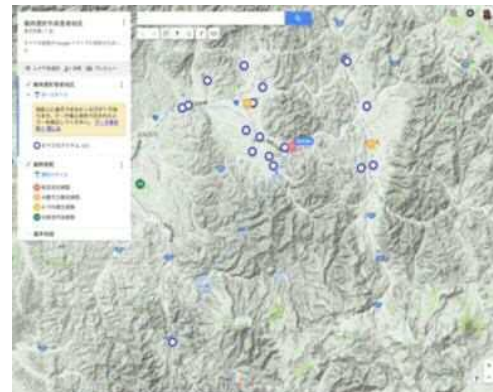
vi 人材育成

医科臨床実習や医療系大学及び専門学校の実習生を積極的に受入、将来に繋がる医療人の育成に貢献。

(図6)



(図7)



	透析件数	(表5) 月平均数
平成27年度	3,365	280.4
平成28年度	3,596	299.7
平成29年度※	3,451	313.7

※H29年度は4～H30年2月累計

・労災病院としての特徴ある取組み

i 治療就労両立支援モデル事業「脳卒中リハ分野」への取組み

「円滑な職場復帰や治療と就労の両立支援の推進」として独立行政法人労働者健康安全機構の治療就労両立支援モデル事業「脳卒中リハ分野」に参加し「両立支援コーディネーターの育成」・「支援事例の収集」・「医療機関向けマニュアルの作成」へ貢献。

ii 勤労者医療の中核的役割

勤労者脊椎・腰痛センターの運営

県北地域の勤労者等を対象に脊椎・脊髄疾患の予防または早期発見に努め、労災病院においてこれまで蓄積してきた症例や医学的知見に基づいた治療を行うとともに、当院の特色である回復期リハビリ病棟を活用して積極的なリハビリテーションを実施し、ADL機能向上による寝たきり防止や早期の家庭・社会復帰につながるよう取組む。

iii 産業保健総合支援センターとの連携

秋田産業保健総合支援センターの産業保健指導員として医師1名派遣、また支援センターの運営会議に参加し連携を強化することで地域も産業保健活動を支援に取組む。

iv じん肺及び振動障害への取組み

「じん肺」及び「振動障害」に係る健康事業に積極的に取組み、労災病院としての使命を果たす。

・行政機関等との関係強化・協力

i 秋田県医療保健福祉計画(素案)で示されている「高齢化に伴う疾患等対策」として大館市との共同事業として市内在住65歳以上を対象に高齢者が身体的・精神的に健やかに過ごし、社会的にも健やかな生活を築いていけるような地域モデル創出事業「健やか人生(Well-being)へのチャレンジ」を開始し「五疾病五事業」には含まれていないが、「ロコモ・フレイル」の予防に主眼をおき保険者との連携による疾病予防事業を開始。

- ii 厚生労働省の競争的研究資金「労災疾病臨床研究事業」を獲得して、平成28年度は、ニプロ(株)大館工場の協力により「中高年層勤労者の腰痛と転倒予防のためデータベースの作成～運動・機能面からのアプローチ～」を実施。平成29年度は次の段階として「ビタミンD欠乏あるいは不足と関連する勤労者の健康問題」に研究の幅を広げ、その成果を国内外の学会等で発表し、国際医療雑誌にも掲載された。
- iii 秋田労働局労災保険診療指導委員会への委員及び地方労災協力医の派遣、労災認定意見書の迅速な対応や特殊健診の実施。
- iv 救急救命士の就業前実習と再教育（生涯教育）実習に協力し地域の救急救命士の質の維持と向上に貢献。
- v 市民補助対象の人間ドック、脳ドック、乳がん検診及びインフルエンザ等予防接種の大館市から受託。

④ 秋田労災病院の課題

- ・診療機能の維持・向上のための常勤医師の確保
地域医療を維持していくためにも一般内科・消化器科・外科医師の確保が最優先課題。
回復期リハ病棟の充実のためリハビリテーション専門医の確保が課題。
- ・看護師の確保
中途退職者や育児休業中の看護師の補充が課題。
- ・効率的なコメディカルの配置
回復期リハ病棟の円滑な運営にはリハビリテーション技師の効率的な配置が課題。
医薬品安全推進のため薬剤師が行う病棟薬剤業務の更なる充実が課題。
- ・老朽化する建物設備
厳しい経営環境の中、築25年を経過している建物設備の機能をいかに維持していくかが課題。
- ・医療機器の計画的な更新
緊急性・採算性に加え医師確保の観点からも診断上の必要性が高く魅力のある機器をいかに更新していくかが課題。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

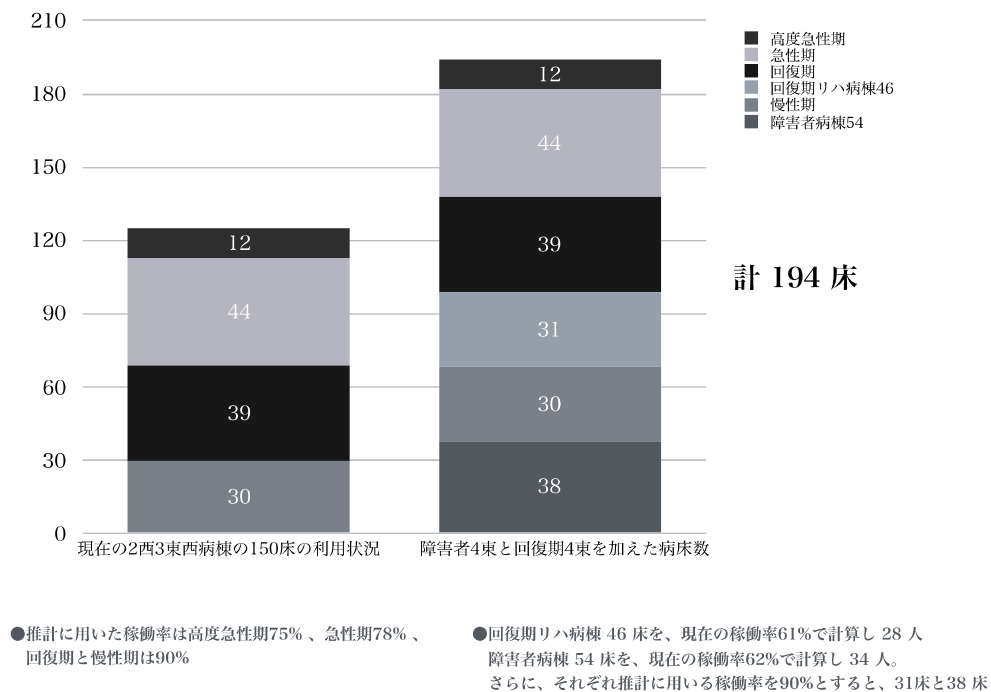
【入院機能】

- ・ 整形外科の急性期医療のさらなる強化。
- ・ 回復期リハビリテーション病棟機能の充実。
構想区域における病棟機能の明確化と、それに基づいた病病連携体制の構築において当院の役割を明確にする。

【病床機能】

既出（ページ7）の「診療実績の病棟別稼働率-①、②、③」から算出した、病棟機能別病床数を示す。（図8）尚、本推計では人口減少による調整は行っていない。

（図8）



【外来機能】

- ・ 構想区域から青森県へ流出している維持透析患者を受け入れる。そのために維持透析に必要な病院機能を充実させる。
- ・ 一次医療の実施。
構想区域内の当院が立地する中学校区（地域包括ケア構築の地区）には診療所がない。その補完として、当院が地区の一次医療の機能を果たす（ことが必要かを検討する）。
- ・ 看護外来の設置。
- ・ 歯科往診・訪問診療機能の充実。歯科口腔外科チームによる地域包括ケアとしての口腔衛生管理の実施。
歯科口腔外科のない医療機関や、介護・福祉施設への口腔衛生管理指導。
- ・ スポーツ外来の充実。

【人材育成】

- ・ 保険者との連携による疾病予防活動に必要な人材の育成。

② 今後持つべき病床機能

なし

③ その他見直すべき点

なし

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について
 <今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	－	→	－
急性期	150		100
回復期	46		46
慢性期	54		48
(合計)	250		194

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			
2018年度 2月1日 4月1日	稼働病床削減 250床から200床 許可病床削減 250床から194床	急性期病床 100床 (10:1入院基本料) 回復期リハ病床 46床 (回復期リハ病棟入院料2) 障害者病棟 54床 (障害者施設入院料) 急性期病床 100床 (10:1入院基本料) 回復期リハ病床 46床 (回復期リハ病棟入院料2) 障害者病棟 48床 (障害者施設入院料)	
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<u>医療提供に関する項目（平成28年度実績）</u>			
・ 病床稼働率	平成28年度実績	70.7%	目標値 75.0%
・ 手術室稼働率	平成28年度実績	65.5%	目標値 70.0%
・ 紹介率	平成28年度実績	25.6%	目標値 30.0%
・ 逆紹介率	平成28年度実績	16.2%	目標値 20.0%
・ 後発医薬品率	平成28年度実績	64.7%	目標値 70.0%
<u>経営に関する項目*</u>			
・ 人件費率	平成28年度実績	71.2%	目標値 現状維持もしくは可能な限り抑制
・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合	平成28年度実績	0.32%	目標値 0.35%

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

（自由記載）